

発行者 特定非営利活動法人 チャレンジド ステーション クジラ
〒196-0003 東京都昭島市松原町3-6-7 アートヒルズ 105
事業所 TEL/FAX 042-569-6433
法人:TEL/FAX 042-542-7288
E-mail shurou-kujira@9jira.com
URL <http://www.9jira.com>



謹賀新年

本年もよろしくお願ひいたします。

昨年は自然、政治、経済をはじめとした社会環境が、正に未曾有の変化した一年だったと感じている方々が多いのではと推察いたします。いろいろな価値基準にも影響を及ぼし、国民生活が先行き不透明の状況におかれています。

障害者をめぐる状況も、「権利条約批准」に向けた議論と「障害者自立支援法」の見直しの動き、相次ぐ「最低賃金」の大幅な引き上げ、「障害者雇用促進法」改正の最終施行など今後の動きを注視していく必要があります。

今後の暮らしや社会保障、税、健康など不安はありますが、今年こそ、皆様にとって穏やかな一年でありますように心よりお祈り申し上げます。

■ 障害者雇用状況発表

11月25日、平成23年度の障害者雇用状況調査(6/1 調査)結果が厚生労働省から発表され、雇用義務の対象となる民間企業の平均実雇用率は、全国で1.65%と前年に比べてマイナス0.03ポイント、東京労働局管内では1.61%と同じくマイナス0.02ポイントの結果です。

平成20年の障害者雇用促進法改正に際して幾つかの重要な改定が行なわれ、その中でも障害者雇用納付金制度の対象拡大と並んで、短時間労働者の雇用率算入と除外率の切下げ措置という大きな改定が行なわれ、この結果として法定雇用率、実雇用率の両方において分母を増加させる効果により算出数値を低下させ、法定雇用率が1.8%に据置かれる要因となりましたが、実雇用率の算出に関してもその低下は前もって予測されていました。

この二つの制度改定があったため、前年との比較を単純に行なうことは適当でなく、仮に改正前の制度によって試算した場合、今回の実雇用率数値は全国で1.75%程度、東京では1.70%程度となります。

今回の結果を、カウント数ではなく障害者の実雇用数で見ると、全国では282,567人(前年度255,962人)と26,605人の増加、東京においては101,029人(同92,514人)と8,515人の増加となっており、現状の経済環境下でも企業の障害者雇用への取り組み、障害者雇用への支援が取り組まれていることが見られます。

また短時間労働者の増加は全国で9,735人から26,042人と2.6倍強を、東京では2,756人から6,618人へと2.4倍となっています。

全国の特例子会社については、前年度調査時点での283社が319社と、36社の増加となっており、雇用される障害者も14,562.5カウントから16,429.5カウントに増えています。これを実数で見ると9,516人が10,883人へ14%を超える伸びであり、障害別には、精神障害者が数こそ少ないものの46%の増加となっています。

リレーコラム

今回はゆうせいチャレンジド株式会社ありがとうセンター支店
コーチ 内藤浩子様よりご寄稿いただきました。

『一年を振り返って』



ゆうせいチャレンジド（株） ありがとうセンター支店
コーチ 内藤 浩子

ゆうせいチャレンジド株式会社は、日本郵政株式会社の特例子会社です。当社の多くの支店では清掃業務を担っていますが、当支店ではゆうちょ銀行にご来店下さったお客様にお配りする販促品（キャンディーの袋詰め）の作成をしています。

昨年11月11日に知的障がい者（チャレンジド）10名、コーチ2名の計12名でスタートしました。

無事に一周年を迎えた今では、チャレンジド20名、コーチ4名、シニアコーチ1名の計25名に社員が倍増しました。平均年齢は20代半ばと若く、非常にフレッシュな職場です。休み時間には、それはもう賑やかになります。

しかし、仕事中はこちらが感心するほど、みんな仕事に集中しており、出来上がりも日々、向上しています。本当に頼もしい限りです。

私たちコーチは、チャレンジドたちが「明るく、楽しく、元気よく」、毎日イキイキと働き続けることを目指して、彼らと向き合っています。

クジラさんの担当者の方を始め、オープン当初から在職のチャレンジドの支援者の皆さまには、立ち上げからご尽力、ご協力をいただき、本当に感謝しています。チャレンジドだけではなく、私たちコーチをも支えてくださり、いつも迅速、丁寧な対応に大変助けられております。

社員数が増えて、一年前にはなかったようなトラブルが発生することが多くなりました。コーチ陣は指導方法、説明方法を各々に合わせて工夫したり、押してダメなら引いてみたり（？）と対応に試行錯誤の日々です。

支援者の皆さまに助けていただいていたばかりで、まだまだ一人前の指導者と呼ぶには未熟な私ですが、今後ともクジラさんの力をお借りし、連携を図り、「明るく、楽しく、元気よく」をモットーに、みんなが一日でも長く働き続けられるよう、共に歩んでいきたいと思っています。

利用者の方から

チャレンジド ステーション クジラを利用して・・・

勤めていたアルバイト先を辞めることになり、これからのことを職員さんと相談して手帳を取得して働くことにしました。以前から仕事のことで相談に乗って貰っていましたが就労支援を受けるのは今回が初めてでした。

職員さんには諸手続きやその他様々な事を教えて頂き、面接や職場実習についてきて貰いました。ただし、就労支援を受けることについて自分の都合のいいように解釈していました。就労支援を受ければ苦労はなく、悩みごともなく、快適に働けるよう何もかもを職員さんが用意してくれるのだらうと思っていました。

当たり前ですが現実とはそうではなく、就労支援とは仕事の進め方や仕事をしてく中で困ったことが出てきた時の部分について支援して頂くものであり、精神医療や就労に関わらない日常のことは医療・福祉などになるという区別について言われていたにも関わらず聞いていませんでした。なので、何か不安なことがあると時間を問わず職員さんに電話・メールをバンバンすることが度々ありました。

時に厳しいことを言われることもあり、ひどい・きついと職員さんと顔を合わせたくないと思うこともありました。ですが、上記にもあるように自分勝手な行動をとったり、せっかくのアドバイスを聞かないなど迷惑をかけてもやりたい放題だったので厳しく言われてもしょうがないのかなと後々気付きました。仕事とは言え、見放さないでいて下さった職員さんには大変感謝しています。

現在は会社を辞め、次の就職先を探しています。今後は、自分で頑張る部分は自分で、職員さんの力を借りれるところはお願いをして1日でも長く働き続けられる職場を探していきたいです。 (K.C)

ナイト・ホリデーサポートのお知らせ

就労している利用者の皆様が会社の帰りや休日に事業所へ気軽に相談できるように「ナイトサポートとホリデーサポート」を行っております。



ナイトサポート (17:30~21:00)	ホリデーサポート (10:00~16:00)
1月6日 金曜日	1月15日 日曜日
2月3日 金曜日	2月19日 日曜日
3月2日 金曜日	3月18日 日曜日
4月8日 日曜日 利用者親睦会 昭和記念公園花見のため、ナイトサポート・ホリデーサポートなし。	
5月11日 金曜日	5月20日 日曜日

加納正 障害者雇用の見聞録

障害者雇用は、企業で採用された現場が、受け入れた企業が、送り出す支援サイドが、行政の取り組みやシステムが主体のように論じられ、勘違いする場合がある。

支援機関の存在は、そもそも「無いほうが」ノーマルであり、ハンデキャップ(社会的不利)や「変化」があるから、支援が必要となってくる。

しかし、最初は戸惑っていた支援機関も「10年も経つと我こそは、障害者の味方で、専門家」であるかのような、振る舞いがあったり(本人たちの自覚が無いところが……)、行政の特別指導を受けていた企業が、さも、率先垂範で障害者雇用の取り組みを進めてきたかのように、得意満面に「障害者雇用」について講演をし、自社のPRをしている。(福祉や教育の分野が時代の寵児のごとく持ち上げ、すり寄ることも助長を促すことなのに、すり寄る側は自分のところのパイプづくりしか考えていないのか)

そんな中、人材ビジネスが蝙蝠のごとく、跋扈し、霞が関では、違法でなければ、「障害者が雇用されれば、それで良いじゃん」とうそぶく。100年前の呉秀三先生の「この病を受けたるの不幸のほか、この国に生まれたるの不幸を重ねるものというべし」この言葉の意味を再度、噛みしめている。

■ 障害者雇用は障害者自らが拡大してきたもの。

11月のある日、〇〇市の社会福祉協議会主催で「働く障害者の役立つ制度」について話をしたいとの依頼があり、大雨の中出掛けた。雨の中少し憂鬱(就職が上手くいかず、悩んでいる障害者の方へ、自分がどう話して、役立つことができるか心配で)な気持ちを抱えて…。

でも、最初の制度の説明では、心配することなく話せたが、前述したように、自分が障害者問題の専門家ぶっているようで、気恥ずかしさと申し訳なさでいっぱいになってしまって、早くこの場を辞したい思いすら感じていた。そんな中、50歳代の女性が自分の事を話してくれた。

彼女は、子供のころにインフルエンザのウィルスの影響で片マヒの状態となってしまったという。言語の障害もあったというが、今の彼女の声は、はっきり聞き取れる。治療やリハビリで回復したのか。または、他の要因があったのか。彼女は、F市のサトーココノカドー(企業名は仮名で、クレヨンしんちゃんで春日部にあるスーパーマーケットの想定)で働いていたが、店舗の閉鎖で、K市のサトーココノカドーに応募し、現在も働いている。

彼女は「爪切りも自分でできる、自分のことは自分でやる」ことなど、また、いかに自分がサトーココノカドーが好きで、20数年働き続けているかを喜々として話してくれる。

つい、うかつにも、目頭が熱くなってしまう。心の中で「そうよね、今から20年位前は、脳性マヒの障害者が集団面接会で、そのアテトーゼの強い体のせいか、言語のマヒからくる発語の稚拙さからか、はたまたまたたまたま垂らすよだれのせいか、障害者手帳が5級や4級であっても、面接さえ受けさせてもらえず、東京体育館の隅で恨めしそうに面接の風景を見ていたよね」とつぶやき、「だから障害者を商品のように扱い、中世の奴隷市場みたいな、集団面接会は嫌いなものさ」と天の邪鬼の自分が不貞腐れぎみにつぶやく。

サトーココノカドーでは、割合と早くから障害者雇用に取り組んでいた。脳性マヒの人が買い物カゴ集めや品出しなど。豆腐の品出しを見ていて、大丈夫かと心配したが、なんていうことなくこなしていた。こなしていたというより本人が努力し続けたのだろう。障害者雇用って、仕事が好きで、働くことが好きな人が、たまたま障害があった人で、その人の頑張りや努力で拡大されてきたと改めて感じさせられた。彼女はずっとサトーココノカドーで働くに違いない。われわれが彼女から教えられることが多々あり、われわれが障害者雇用に拡大してきたなどと、勘違いしてはいけない。

そのほかにクローン病で入院していた方が「相談したく、今日病院を退院してきた」と話し、今後のことに少しアドバイスすると、にこにこ喜んで「今後の自分の進路を決定できた」と喜んでいたり、居酒屋さんの店長さんをされていた高次脳障害の方(若い方)で復職について悩んでいたが、少し問題の整理がついた様子にほっとした。まだまだ、障害を受け、社会復帰や仕事へ就くことの困難を抱える人は多い。企業の雇用率達成とか、就職数とか支援者数とかが障害者雇用ではなく、一人一人の人生をどう支援できるか、その一場面としての雇用もあるのかな。雨上がりの夕方、少しほっとして帰路についた。

報告 (10月・11月)

- 10月 5日 障害者自立支援推進協議会出席【昭島市役所】
- 10月 7日 発達障害の理解と対応について参加【昭島市役所 市民ホール】
- 10月 7日 ナイトサポート
- 10月14日 昭島市障害者福祉ネットワークプロジェクトチーム会議出席【昭島市保健センターあいぼっく】
- 10月16日 ホリデーサポート
- 10月21日 多摩地区就労支援事業連絡会出席【立川女性総合センター アイム】
- 11月 4日 ナイトサポート
- 11月 7日 N 株式会社様訪問 (職場開拓)
- 11月 9日 就労支援研修参加【東京都心身障害者福祉センター】
- 11月15日 Y 株式会社様訪問 (職場開拓)
- 11月11日 昭島市障害者福祉ネットワーク議員懇談会出席【昭島市保健福祉センターあいぼっく】
- 11月16日 地域支援会議出席【昭島市役所】
- 11月20日 ホリデーサポート
- 11月21日 昭島市障害者自立支援協議会出席【昭島市役所】
- 11月22日 昭島市障害者福祉ネットワークプロジェクトチーム会議出席【昭島市保健福祉センターあいぼっく】
- 11月24日 昭島市商工会 講習参加【昭島市勤労商工市民センター】
- 11月24日 東京都立青峰学園平成 23 年就労支援機関連絡会出席【東京都立青峰学園】



NPO 法人 チャレンジドステーションクジラ賛助会について

NPO 法人 チャレンジドステーションクジラ賛助会へ多数のご協力をいただきましてありがとうございます。今後も一層の努力をして参りますので宜しくお願いいたします。

賛助会は随時受け付けております

年	会	費	1 口 2, 000円
連	絡	先	042 (542) 7288 お振込みの場合は下記までお願いいたします。
振	込	先	青梅信用金庫昭島支店
普通口座	店番		015 口座番号 0711599

特定非営利活動法人 チャレンジド ステーション クジラ 理事 東 條 芳 男